

我が立憲政治の特色

社長 高橋憲太郎

より特色ありやと云ふことはさうはならない、いきな國家には特色ありや大きさに就いて議論が起る私は我り三千年前の支那をつかまも違ふ地勢も違ふ山川の形が憲法の制定せられる所以いて研究せんとしても國家勢も違ふ物産も違ふ其の國即ち明治十二三年頃國會開なるものは到底判らぬ國家も違ふ最も大きな特色は國設論の盛んであつた時代が各々違つたもので有つて一をなす歴史である歴史が國ら明治二十二年憲法制定せつに特色が有る日本國民がを定むる大きな要素であるられ爾來三十年其間立憲制今日深く考ふべき重大なも假令ば時計である私の持つてゐる時計と外人の持つて

軍人の模範として足る

孝行兵士坂本勝美君

だしきに至つては我が憲法 山もあれば川もある其の國計と取りかへることが出來に定めた條項を見づして英の大小形狀地勢山川等之はぬかといふに夫れは歴史が吉利では斯る場合は解散は如何とも仕様が無い、神様あるからである、此のニツ

城郡湯本町より滿洲へ出でゐる由であるが之れを知
世中の坂本勝美君は幼にしろ者のすては同君の孝養
父を失へ母の手一つに養に對して感泣してゐる。

せぬとか斯る場合に大臣は地球を不幸平に作られた
 總辭職をしなければならぬのである彼の國際聯盟に於
 之に反するは非立憲なり我て總ての國家が地域も人口
 が國もさうしなければならぬも總べて同じであつたなら
 ことも取りかへることも出

十一月から給仕となつて雇伯父片寄金作氏に宛てよこされ入山炭坑に大正十四尙同君が戦地より湯本町の
はれ上司の覺もよく勤續して音信の全文を掲げてマ
あつたが身を軍人に志しザく」と目に見る如き勇奮

てゐるのである、斯る議論の五十幾つの國に不公平な計を持つて居る夫れは三越が有つて立憲制は決つたも分配を神様がされたのであるから買つて來たものであるのである國々によりては違ふ、吾々は此の國家をはな彼の金時計は捨てることがつた立憲政治を考ふるに他なれば日本經營は出來ぬ物出來ても此のニツケル時計

本年一月志願兵として第廿
聯隊へ入隊後間もなく満
洲へ出動することとなり現
戦地に奮闘を續けつゝあ
が勝美君は亦大の現孝行
御書を御手紙有難う御座い
ました何時も御變りなく
御暮しの事は本當に嬉
しうあります。

自然科學の研究とは異なり産は無くとも國小さくもおは捨ることは出来ない物は研究の對照たる國家は一つ互が顔が黃色でもお互に持其のものゝ歴史に價值がある著しく違つたものと考つて生れた運命であるぞれる、我が立憲制は明治二十二年に御發布になつた此の二

下で、淋しく父なき後を守り、自分を懷つてくれてゐるを思ひ續けては遠隔の戦場に於いて、

政治研究の第一歩である自くべく斯る處に針路を開拓憲法を御布きになるまでに然科學では梅の花を知らどしなればならぬのに我がは種々なる沿革を經却に容すれば庭前の梅の木をいき國民は判り切つたことが判易なものではなかつたのでなり取つて研究して來ればつて居らず國家は何の國家有る初め我が國が立憲の基

是に在りながらも郷里の母
 にくし滋養物の一つも求め
 ぐださいと彼の地へ出征
 後も一週間目毎にはその受

勝美は斥候に出て敵にか
 こまれて危くやられる所
 でもたが不幸戦友は倒れ
 其の中に敵情を偵察して
 報告して中隊長から表彰

凡そ梅の花は何ういふ構造も同じと思ふのか我が國の礎を取つたのは明治初年を下をしてゐるといふことが判振はぬ頽勢茲に有る所以とあつた、當時我が國では何

さへ、よく俸給の一圓を必ず送
さしでは慰めの言葉に換へ
さるゝ。勝美は勇ま
しく戦つて居ります。死

なんか第二の問題として
 君のため國のため體を捧
 げてゐます十九日チ、ハ
 ルを占領して今此處に手
 紙を書いてゐます、明廿
 九日も出動して今度は某
 方面に出動です今度は戦
 死の覺悟です、何卒後の
 ことはよろしく願います
 御迷惑ばかりかけて居り
 まして申譯ありません伯
 父様

母様にもよろしく勝美は
 死を覺悟して働いてゐる
 と御傳へ下さい、では多
 忙なため亂筆にて御めん
 下さい。

滿洲歩兵第廿九聯隊第七
 中隊（於チ、ハル）
 十一月廿八日
 坂本勝美

威權そのもの、内に

就議員の眞面目なる總てに於て巍然片倉王國の寵兒焉として頭角を抜きつゝある吾が磐城片倉製糸株式會社は人選尤もその宜敷を得たる辰野所長と事務的に才越せる小澤事務長との識見と手腕とは意の越く處可ならざるはなく今日に於ける繁般の礎を築き上げた事は而かも這般の始業式に於ける

深情味溢る、
三瓶寺島署長

警視廳管下の署長中でも尤縣人會は前會長篠原紘氏辭
敏腕の聞えある三瓶氏は任後渡邊芳之助氏が推され

益々の年齢である而して氏
素封家の出身で今が働らき
島島縣石城郡桑村に於ける
會の隆昌を見るべく努力し
つゝあるが、氏は人も知る

は始むと恐らくの階級を網羅する行政上最つとも難所なる信用を有し現在寺島町と見えられてゐる寺島署議員、日本獸醫會幹事、

長として現在一般民から慈愛の如く思慕されて居る結文の如く思慕されて居る結

中央蓄産會幹事、南葛民政俱樂部幹事等肩書を有し且つては東京篩藏組合長とし

事がなり現在府下寺島町二

何人もが思ふ所はその少二、三番地に置醫師として
時の對話中に於てすら謹嚴盛大に業務を營んで居るが、養
そのものゝ内に一種謂ふべき今回の滿洲事變起るや、義

からざる温情味の漂へつゝ、憤に燃ゆる氏の性情押へ難
ある事を知るであらふ斯く隅田支部長堀川五郎、龜
氏は一般からの信條を江戸支部長石川英夫、大島

支部長三輪俊次、寺島支部長川平捨次郎、砂町支部長矢部政次郎、同幹事長加藤

江東福島縣人會長外
勇之進の諸氏と共に金五拾
圓を滿洲出兵勇士へ慰問金

支部長諸氏の義舉として贈るべきになつた盛會なりし
警成片倉製

大東京の江東一帯に多數の
會員を擁し同郷愛扶の眞精
神に生きつゝある江東福島糸
質と工場と完備せる点と
磐城川倉製糸内始業式

桑本竹次郎
右者退社致候に付爾今
本社と關係無之候此段
社告候也
常磐タイムス社

社
主